

財団法人南北海道学術振興財団の概要

- 設立目的 南北海道地域における学術研究の振興による人材育成、および地域の学術、教育、文化、産業の発展に寄与すること。
- 事業内容 情報科学を中心とする学術研究・交流支援事業、学術研究成果の普及、および科学技術の啓発事業。
- 基本財産 3億4,120万円

役員名簿 [平成24年3月現在]

役職	氏名	備考
理事長	山崎文雄	(財)北海道国際交流センター代表理事
副理事長	三浦汀介	(財)函館地域産業振興財団副理事長
副理事長	山本真也	函館市教育委員会教育長
理事	廣中平祐	(財)数理科学振興会理事長
理事	岩熊敏夫	函館工業高等専門学校長
理事	嵯峨直恒	北海道大学大学院水産科学研究院研究院長
理事	酒井康次	函館商工会議所専務理事
理事	中林重雄	函館市副市長
監事	井上守	井上守税理士事務所長
監事	高橋正幸	函館商工会議所産学官連携促進委員会委員長
評議員	新木秀幸	檜山管内教育委員会連絡協議会教育長部会長
評議員	飯田隆一	檜山管内商工会連合会会長
評議員	田中健一	渡島町村教育委員会教育長会会長
評議員	木元護	渡島管内商工会連合会会長
評議員	中野拓	函館青年会議所副理事長
評議員	穴戸雄一	函館市文化団体協議会会長
評議員	中島栄一	南北海道創才教育推進会会長
評議員	山口道雄	北海道高等学校PTA連合会道南支部顧問
顧問	工藤壽樹	函館市長
顧問	高谷寿峰	北斗市長
顧問	寺島光一郎	檜山町村会会長

平成22年度の収支決算

収入の部		支出の部	
科目	決算額	科目	決算額
基本財産運用収入	2,182,071	事業費	1,763,050
特定資産運用収入	788,776	管理費	405,830
会費収入	190,000	予備費	0
雑収入	0	当期支出合計(C)	2,168,880
特定資産取崩収入	0	当期収支差額(A)-(C)	991,967
当期収入合計(A)	3,160,847	次期繰越収支差額(B)-(C)	2,227,844
前期繰越収支差額	1,235,877		
収入合計(B)	4,396,724		

(単位:円)

賛助会員募集

財団法人南北海道学術振興財団の事業趣旨をご理解いただき、ご支援をいただきたく、賛助会員を随時募集しております。

賛助会員へは、財団が行う各種事業のご案内の送付や、財団の会報の無料送付などをさせていただきます。年会費は、法人会員:20,000円、個人会員:5,000円となっております。どなたでも会員になることができます。

会員申込やお問合せは、事務局までご連絡下さい。

財団法人

南北海道

学術振興財団ニュース

第12号

平成24年3月発行

南北海道学術振興財団は、南北海道地域での学術研究の振興を図り、科学技術の進展を担う人材の育成と地域の学術、教育、文化、産業の発展のために活動しています。

人と科学の未来のために

Human
&
Science



サイエンスライブ2011
[北海道のワインを科学する]

平成23年度の実施事業

1 学術研究および学術交流の支援にかかわる事業

■研究費助成

道南圏の大学等における先端的な学術研究に対し、1事業につき100万円を上限として助成しました。

- 「情報科学的手法によるスルメイカ資源予測モデルの開発」
…北海道大学大学院水産科学研究院助教 山本 潤
- 「特発性大腿骨頭壊死症のための手術シミュレーションシステムの開発」
…公立はこだて未来大学准教授 加藤 浩仁

■学会等参加経費助成

道南圏の大学等の教員が行う海外の学会への参加、視察に対し、1事業につき20万円を上限として助成しました。

- 「第5回家禽鳥類の基礎生理学および孵化期の発達に関する国際学会への参加」
…函館工業高等専門学校准教授 森谷 健二

■留学経費助成

道南圏の大学等の学生、大学院生が行う海外への留学に対し、1事業につき30万円を上限として助成しました。

- 「ダルハウジー大学への留学」
…公立はこだて未来大学大学院システム情報科学専攻 薄井 宏航

※申請時の役職名を記載しています。共同研究は、研究代表者名を記載しています。

2 学術研究成果の普及および科学技術の啓発にかかわる事業

■情報科学セミナー開催

- サイエンスライブ2011「北海道のワインを科学する」

※はこだて国際科学祭2011のプログラムとして開催

サッポロビール株式会社と函館市と共催で、世界で最も権威があるワインコンテストIWSCで金賞を受賞したワインの醸造責任者が、北海道の気候や土が育むブドウから美味しいワインができるまでを科学的な視点から解説しました。



開催日 平成23年8月20日(土)
会場 五稜郭タワー アトリウム
出演者 工藤 雅義(サッポロワイン(株)ワイン研究所技術開発部長)
南出 薫(オペラ歌手)
新蔵 由香里(ピアノ)ほか
参加者 200名
参加者の声
○講演だけでなく、プラス演奏・試飲という三重奏がとっても良かったです。
○専門的でハイレベルな内容だったので、グラフや図表などのレジュメを配布した方が良かったと思います。
○たいへん良かったので今後も続けて欲しいです。
○次はウイスキーを科学したいですね。

3 新公益法人制度の概要について

国においては、民間非営利部門の活動の健全な発展を促進し、現行の公益法人制度に見られる様々な問題(主務官庁の裁量権の行使に係る不透明性など)に対応するため、新たな制度を創設しました(公益法人制度改革3法:平成20年12月1日施行)。

これにより、当財団などの公益法人は、特例民法法人として平成25年11月30日までの5年間に限り存続しますが、その間に、公益社団法人または公益財団法人もしくは一般社団法人あるいは一般財団法人に移行する手続きが必要となる(移行しなければ、移行期間の終了とともに解散となります)ことから、現在、理事会・評議員会において、今後における当財団のあり方も含め、協議・検討を進めているところであり、平成24年度上期を目標に方向性を決定することとしております。

■公益法人制度改革の概要

